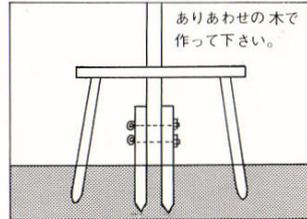


支柱を取り付ける

- Wパイルポールは丈夫に出来ておりますが、一層安全のために支柱を付けて下さい。

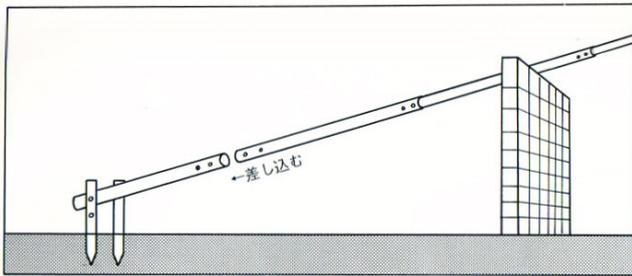


5. 解体及び鯉がからんだとき

組み立てと逆の順序で、支持張り綱をはずし静かに周囲に気をつけながら倒して下さい。立てるときと同様に必ず二人以上で倒して下さい。からんだ鯉も簡単に直せます。

6. 場所が狭くて地上で長くポール本体がセット出来ない場合は下記の様に斜にして立てて下さい。

- ①杭を打つ要領は1と2に準じて行って下さい。
- ②ポール本体の最下部だけを2本杭にとりつけます。
- ③最下部以外のポールを、道路等の広い場所で組み立てて設置場所に運び込んで下さい。
- ④本体を斜に塀等に立て掛け、周囲の物に気をつけて最下部と結合して下さい。
- ⑤滑車、ロープ、矢車、傘、張り綱等の取り付けは、前述の説明に準じて行って下さい。



7. 保管上の注意

使用後は、汚れを落とし、乾いた布等でよくふいて保管すること。
湿気のある場所や、潮風の当たる場所には、保管しないこと。

8. 使用上の注意

- ①雨天時、降雨直後及び強風時には、ポールの組み立て及び解体を行わないこと。
- ②強風時には、鯉や吹き流しを降ろすこと。
- ③ポールに取り付ける鯉、吹き流しの点数は6点以下で、その長さは、最長のものでポール本体の全長の3分の2以下であること。
- ④矢車等は、ポール本体に適したものを選ぶこと。
- ⑤ポールを使用後は、速やかに解体して保管すること。

(株) 中須金属工業所

お父様とお母様で立てられて、安全な

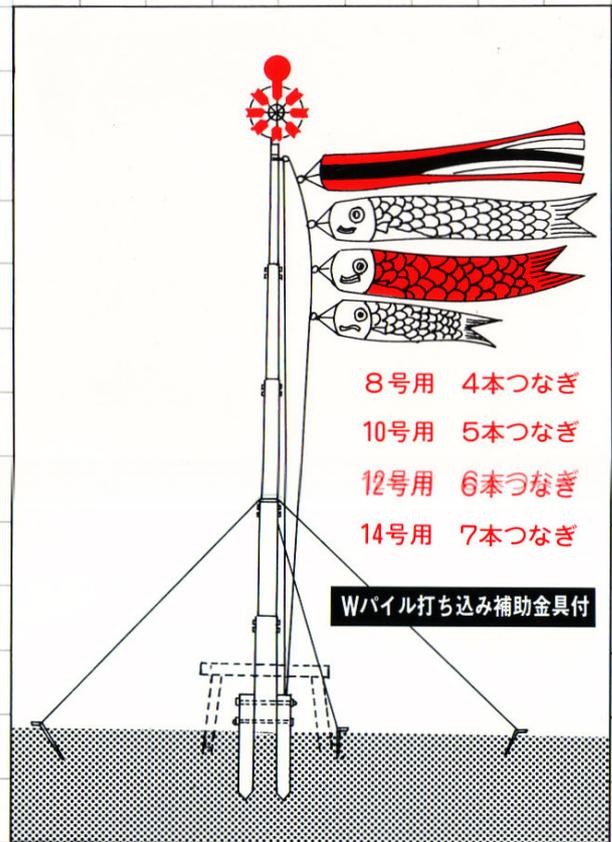


印

Wパイル

鯉のぼり用ポール

組立説明書



Wパイルポール6つの特長

- 安全** ①立てるとき、倒すときの危険がありません。
- 強さ** ②杭が2本ですから、立ててからも抜群の丈夫さ。
- 人手** ③立てるときの所要人数が2人で充分です。
- 修理** ④万一鯉がからんで立て直すときでも、とても簡単に出来ますから便利です。
- 場所** ⑤狭い場所でも簡単に立てられます。
- 作業が楽** ⑥杭が細いので地面への打込みが楽です。

※アルミ製の為、電気が良く流れます感電に御注意下さい。
電線にふれる恐れのある場所では絶対に立てないで下さい。

Wパイル(杭)の ポール組み立て順序

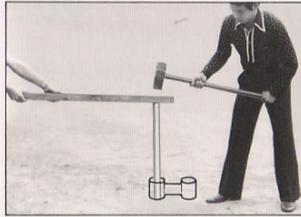
1. 組み立てる場所の撰定と人数

組み立てる時に、又万一傾斜したときにも電線に触れない様な場所を選定して下さい。

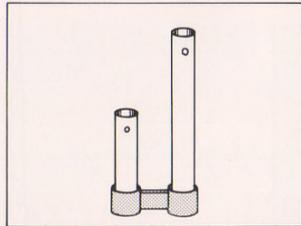
安全の為、大人2人以上で組み立てて下さい。

2. 杭の打ち込み

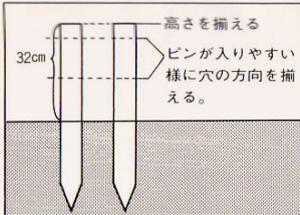
① 打ち込み補助金具(○-○型)を入れてから先づ1本の杭を、木をあてて約32cm残して垂直に打ち込んで下さい。



② 2本目の杭も平行になる様に打ち込んで下さい。

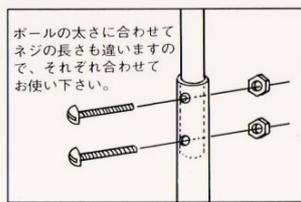


③ ピンが入りやすい様に穴の方向を揃えて下さい。手で廻らないときは、ネジ棒を穴に差し込んで廻して下さい。それでも固いときは杭を少しゆさぶりますと楽に廻の様になります。

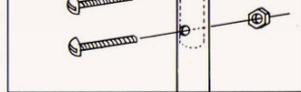


3. 本体ポールの組み立て

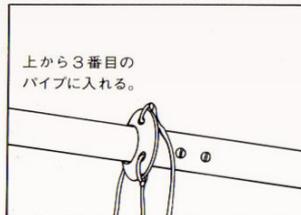
④ 杭の上方の穴をポール本体の最下部より二つ目の穴を◎ ボルトで連結して下さい。



⑤ 地上でポールの太さに合ったネジで太い方から(ネジは長い方から)止めて行って下さい。



⑥ 上から3番目と4番目をつなぐとき張り綱を張る傘状の金具をとりつけて下さい。

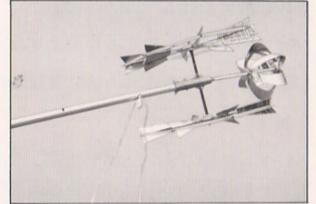


⑦ 先端から二番目の穴に滑車をとりつけて下さい。

矢車の筒とポールの太さが合わないとき布かセロテープ等を何回も巻い

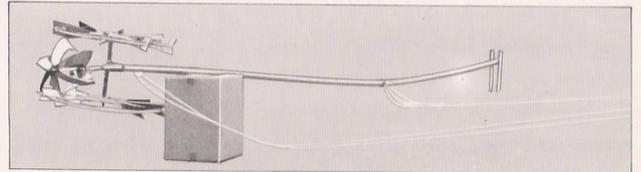
て、すき間を埋めて下さい。

穴が合わないとき、矢車の横棒と滑車を止める金具を針金か細く強い紐でつなぐ様にして矢車を固定して下さい。



⑧ ロープの取り付け

張り綱を傘状の金具に、そして滑車に鯉のぼり用ロープをとりつけて下さい。



4. ポールを起して立てる

地上でセット完了したら愈々立てるのですが、その前に、もう一度点検して下さい。

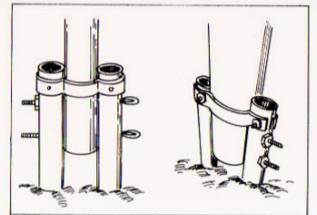


必ず杭の上の穴でポールと接合してポールを起します。



特に

1. 矢車は正常にとりつけられているか。
2. 滑車に鯉のぼりのロープがとりつけられているか。
(鯉は立ててからとりつけます。)
3. 三方へ引っ張るロープは充分か。
4. 電線が無いかな。



支持張り綱を固定する

- 打ち込み杭は確実に打ち込むこと。
- 支持張り綱の地面との張り角度は、60度以下であり、支持張り綱は確実に張り、容易に解けぬように結ぶこと。
- 支持張り綱を固定する打ち込み杭の地面との打ち込み角度は、60度から90度の範囲内であること。

